

生成AI活用によるプロジェクトリスクマネジメント実践講座【オンラインライブ】

(4126288)

本講座では、生成AIを単なる回答作成ツールではなく、PMの思考を広げる支援手段として活用し、リスクの抜け漏れを防ぎ、意思決定の精度とスピードを飛躍的に高める手法を習得していただきます。演習では、実際の失敗事例を基にした50年来のレガシー移行プロジェクトを題材に、人間がどのように考え、判断し、説明責任を果たすかを実践します。

開催日時	2027年2月2日(火) 9:00-16:00ライブ配信
JUAS研修分類	プロジェクトマネジメント(プロジェクトマネジメント)、データ・AI活用・技術動向(AI・新技術 検証)
カテゴリー	IS戦略実行マネジメント・プロジェクトマネジメント 専門スキル
DXリテラシー	What(DXで活用されるデータ・技術)：デジタル技術
講師	中谷英雄 氏 (株式会社ピーエム・アラインメント 取締役 ビジネスコンサルティング部長) PMI認定PMP 2013年 米国PMI最優秀教育プロバイダー認定 スクラムアライアンス認定スクラムマスター (CSM) プロダクトオーナー (CSP0) ＜略歴＞ 1．BIPROGY(旧：日本ユニバック) (1983年～) 2．三井住友信託銀行(旧：三井信託銀行) (1990年～) 3．ピーエム・アラインメント (2006年～現職) ・主に金融IT大規模プロジェクトのPM0支援に従事。 ・その後大学院でデザインマネジメントを学び、社会課題の解決、金融商品の開発等でデザイン、アート、顧客体験等を活用。 ・現在、新事業創出、デザイン戦略、イノベーションとDX推進に関わる諸テーマを中心に、コンサルティング活動、教育活動を展開している。 ＜研究会活動＞ ・組織のダイナミズム研究会(ODSG) 会員 ・震災復興関連のNPO向けに、イノベーションプロセスの活用支援展開中 ＜PM関連書籍著＞ 監修 PMI 日本支部 「PMツールの実践的活用」プロジェクト 翻訳メンバー PMI プログラムマネジメント標準 第2版
参加費	JUAS会員企業/ITC：35,200円 一般：45,100円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	オンライン配信 (指定会場はありません)
対象	・事業会社 IT 部門マネージャー、リーダー、PM ・ベンダーコントロール担当者 ・プロジェクトマネジメントの経験があり、リスクマネジメントの進め方に問題意識をお持ちの方 ・生成 AI を活用したことがある方 中級
開催形式	講義・個人演習
定員	24名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
特記	生成AIを使った演習を実施します。 ・Excel、WordがインストールされているPCをご用意ください。 ・Copilot、ChatGPT、Gemini、Claudeのいずれか、普段利用している生成AIを使用できる状態にしてください。 ・会社が定めた生成AIの利用ルール、入力可能情報、保存・記録の規定を事前に確認してください。 ・有料プランへの新規加入は不要です。
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

ライブ配信 (Zoom ミーティング) 【[セミナーのオンライン受講について](#)】

■テキスト

開催 7 日前を目途にマイページ掲載

■開催日までの課題事項

受講環境のお願い

※生成AIを使った演習を実施します。

スペック等の指定はありませんが、以下のソフトウェアを使用します。

－Excel、Wordがインストールされていること

－生成AI(Copilot, ChatGPT, Gemini, Claude のいずれか)が利用可能であること

生成AI活用によるプロジェクトリスクマネジメント実践講座

～レガシー移行プロジェクトを成功に導く意思決定力強化～

本講座では、生成AIを単なる回答作成ツールではなく、PMの思考を広げる支援手段として活用し、リスクの抜け漏れを防ぎ、意思決定の精度とスピードを飛躍的に高める手法を習得していただきます。

演習では、実際の失敗事例を基にした50年来のレガシー移行プロジェクトを題材に、人間がどのように考え、判断し、説明責任を果たすかを実践します。

◆趣旨

本講座は、事業会社IT部門が直面している最大の課題である「意思決定の遅れ」と「判断ミスによるプロジェクト失敗」を根本から解決することを目的としています。

多くの現場では、進捗管理やドキュメント作成といった事務作業に追われ、本来最も重要であるはずの「リスクの見抜き」と「意思決定」が後回しになっています。

その結果、気づいたときには手遅れとなり、プロジェクトは炎上へと向かってしまいます。

生成AIの活用は進んでいますが、その多くは個人レベルの効率化に留まっています。

現実には、レガシー移行のような高難度プロジェクトにおいて、見積の甘さ、ベンダー任せの判断、リスクの見落としが引き金となり、数億円規模の損失につながるケースが後を絶ちません。

「安さ」で選んだ意思決定が、後戻りできない失敗を招く――こうした事態は決して他人事ではありません。

本講座では、生成AIを単なるツールではなく「PMの思考パートナー」として活用し、リスクの抜け漏れを防ぎ、意思決定の精度とスピードを飛躍的に高める手法を習得していただきます。

演習では、実際の失敗事例をベースにした「50年来のレガシー移行プロジェクト」を題材に、受講者自らがAIを駆使してプロジェクトを立て直す実践トレーニングを行います。

本講座を通じて得られるのは、単なるAI活用スキルではありません。

「その意思決定で本当に大丈夫か？」を見抜く力――すなわち、プロジェクトの成否を分ける“判断力”そのものです。

◆主な内容

- ・ 導入 生成AIと人間の役割分担
- ・ 基礎 目的・目標とリスク
- ・ 入力設計 生成AIに入力する前の情報整理
- ・ 演習（個人・チーム）【設問1-1】人間だけでリスクTOP5を抽出する
- ・ 講師デモ【設問1-2】粗い問いによるAI出力を評価する
- ・ 演習（個人・チーム）【設問1-3】入力を改善し、隠れリスクと経営報告事項を選ぶ
- ・ 講師デモ【設問1-4】危険な前提を第三者レビューする
- ・ 演習（個人・チーム）【設問2-1】危機顕在化後の最初の10日間で決める論点を整理する
- ・ 講師デモ【設問2-2】関係者の反対意見で推奨案の成立条件を検証する
- ・ 演習（個人・チーム）【設問2-3】経営会議向け1ページ意思決定依頼を作る
- ・ まとめ 安全なAI利用、判断記録、現場適用

※内容は、受講者の状況や進行に応じて一部調整する場合があります。

◆演習概要

本演習では、約50年にわたり使われてきた人事・勤怠・給与システムの刷新プロジェクトを取り上げます。

全国約230拠点、約2万4,000名の従業員を抱える企業で、古いシステムの資料と実際の仕組みが一致していない、拠点ごとに独自の処理があるなど、さまざまな課題が隠れています。

受講者は、プロジェクトが本格的に始まる前の情報を読み、まず自分自身でリスクを考えます。

その後、生成AIの回答と比較しながら、見落としとしていたリスクや、判断するために足りない情報を確かめます。

問いかけ方を変えると回答がどう変わるかも体験し、AIの回答をそのまま受け入れず、自分で確かめて判断する方法を学びます。

後半では、テストで重大な問題が見つかり、ベンダーから追加費用2.2億円と12か月の延期を求められた場面を扱います。

何を確認し、どのような選択肢を考え、経営に何を決めてもらうべきか。

関係者の反対意見も踏まえて対応を考え、経営会議に提出する1ページの説明資料にまとめます。

演習を通じて、「どこで気づけたのか」「どうすれば防げたのか」を考え、生成AIを活用しながら、現場でリスクを見抜き、判断し、相手に伝える力を身につけます。

◆研修を通じて得られるスキル

- 1 AI入力前の情報整理スキル
目的、ケース上の事実、制約、不明点、検討する視点、出力形式を整理し、生成AIへ与える前提を設計できるようになります。
- 2 リスクの構造化と優先順位付けスキル
原因、リスク事象、影響、問題、課題を区別し、目標への影響、ケース根拠、影響範囲、不可逆性、発見可能性、判断期限で優先順位を付けられるようになります。
- 3 AI出力の評価スキル

一般論、重複、根拠不足、事実と推測の混在、見落としを検出し、出力を採用・修正・却下できるようになります。

4 意思決定シナリオ設計スキル

複数の選択肢、判断基準、成立条件、停止条件、切替条件を比較し、条件付きの推奨案を設計できるようになります。

5 ベンダーと関係者の確認責任を明確にするスキル

見積前提、責任分担、業務・技術・契約上の論点を関係者別に確認し、確認担当、期限、最終判断者を明確にできます。

6 経営向け説明と判断記録のスキル

現状、最悪シナリオ、選択肢、推奨案、決裁事項を1ページにまとめ、正本、プロンプト、AI出力、レビュー結果、判断理由、再評価日を記録できます。

◆受講環境のお願い

生成AIを使った演習を実施します。

- ・Excel、WordがインストールされているPCをご用意ください。
- ・Copilot、ChatGPT、Gemini、Claudeのいずれか、普段利用している生成AIを使用できる状態にしてください。
- ・会社が定めた生成AIの利用ルール、入力可能情報、保存・記録の規定を事前に確認してください。
- ・有料プランへの新規加入は不要です。